

4年道徳

個性の伸長1-(5)

番組名 「時々迷々」

放送回 第12回「特技に生きる」

実践者 川崎市立はるひ野小学校 教諭 佐野 加寿子

だれの心の中にも潜む「迷う気持ち」。主人公たちの「葛藤」「揺れ」そして選択した「行動」を、子どもたちに、時に苦しい気持ちで見てもらい、自らに引き寄せて考えることをねらいとした番組である。

番組の使い方

活用のねらい

番組を視聴することで、自分の良さについて一生懸命に考える主人公に自分を重ねて考えることができる自分のよさを探す」ということを共通理解させ、自己肯定感を高めたい。



具体的な手だて

- ・授業導入時（発問）
「自分のよさはどんなところでしょう」
- ・まるごと視聴（15分間）
- ・まず、本時のねらいについて子どもたちに発問する。はじめは困惑する子がほとんどだと思われるが、番組をまるごと視聴することによって主人公が前向きに自分のよさを探し出そうとする姿に共感し、「自分も探してみよう」という気持ちを育む。

授業の概要(1時間)

本時の目標

- ・自分の本当のよさに気付く主人公を通して、自分の特徴について考え、よいところを伸ばそうとする心情を育てる。

「自分のよさはどんなところでしょう」と問いかけ、考える。(5分)

番組視聴(15分)

- ・主人公クマオは、自身の良さについて答えることができないことに焦りを感じる。紆余曲折しながらも諦めないで自分のよさを探し続けるクマオ。その甲斐あって最後は自分の本当のよさに気付く。

感想交流(10分)

- ・番組の感想を交流し、自分のよさをを見つけることを再確認する。

Xさんからの手紙(10分)

- ・クラスの友達から予め書いてもらった自分の良いところの手紙を読む。

まとめ(5分)

- ・これからの自分について考える。

生き生きと学ぶ子どもの姿

クラス児童全員が共通の土台で考える

4年生くらいになると「自分のよさ」を人前で堂々と話すことが恥ずかしかったり、「自分のよさ」を見付け出すこと自体の必然性に疑問をもったりする子がでてくる。しかし、主人公のクマオは、失敗や勘違いは多いが最後まで明るく前向きに「自分のよさ」について探ろうとする。その姿は実に清々しく、「自分のよさについて」探してみようという**児童の前向きな気持ちを引き出すことができた。**

他人を認め、自分を認める～自己肯定感を高める～

クマオは最後の手段として母親に「自分のよさ」について尋ねる。自分が思っている「自分のよさ」と他人からみた「自分のよさ」とはまた違う。授業では、**同じ学級の仲間の手紙を書いてもらうことを通して改めて知る「自分のよさ」に出会うことができた。**

指導を終えて



番組を見ることで、「自分のよさ」について考えること自体のよさを感じることができた。そのお陰で、どの子も前向きに「自分のよさ」について考える土台ができあがった。

互いに手紙を書くことで、友だちのよさを改めて考えるきっかけになった。また、他人からみた「自分のよさ」は自分が思ってもいないような意外な部分であったりもして、自分自身について改めて知り、自己を大切にすることが育まれたように感じる。